

現状

- ◆ 札幌市は他政令市と比較して人口10万人当たりのがんや糖尿病による死亡率や喫煙率が高く、健康の分野に課題を抱えている。
- ◆ 札幌市では、**2040年代には高齢者人口がピーク**を迎え全体の**約4割**を占めるようになり、2060年代には1.2人で1人の高齢者を支える「肩車型の社会」が到来する。(超少子高齢社会)
- ◆ 全国では、2050年ごろには、100歳以上の高齢者が50万人を超える見通しもある(経済産業省の推計)。(人生100年時代の到来)
- ◆ 健康寿命を2040年までに3年以上延伸する(2016年比)という国の目標を受け、札幌市でも「健康さっぽろ21」において平均寿命の伸びを上回る健康寿命の伸びを目標としているが、全国・他政令市と比較しても短い。
(2016年：男71.34年、女72.89年 2019年：男72.80年、女74.69年)
- ◆ 高齢者有業率は政令市中最も低いが、就業希望率は政令市・全国平均を上回っている。

施策の方向性

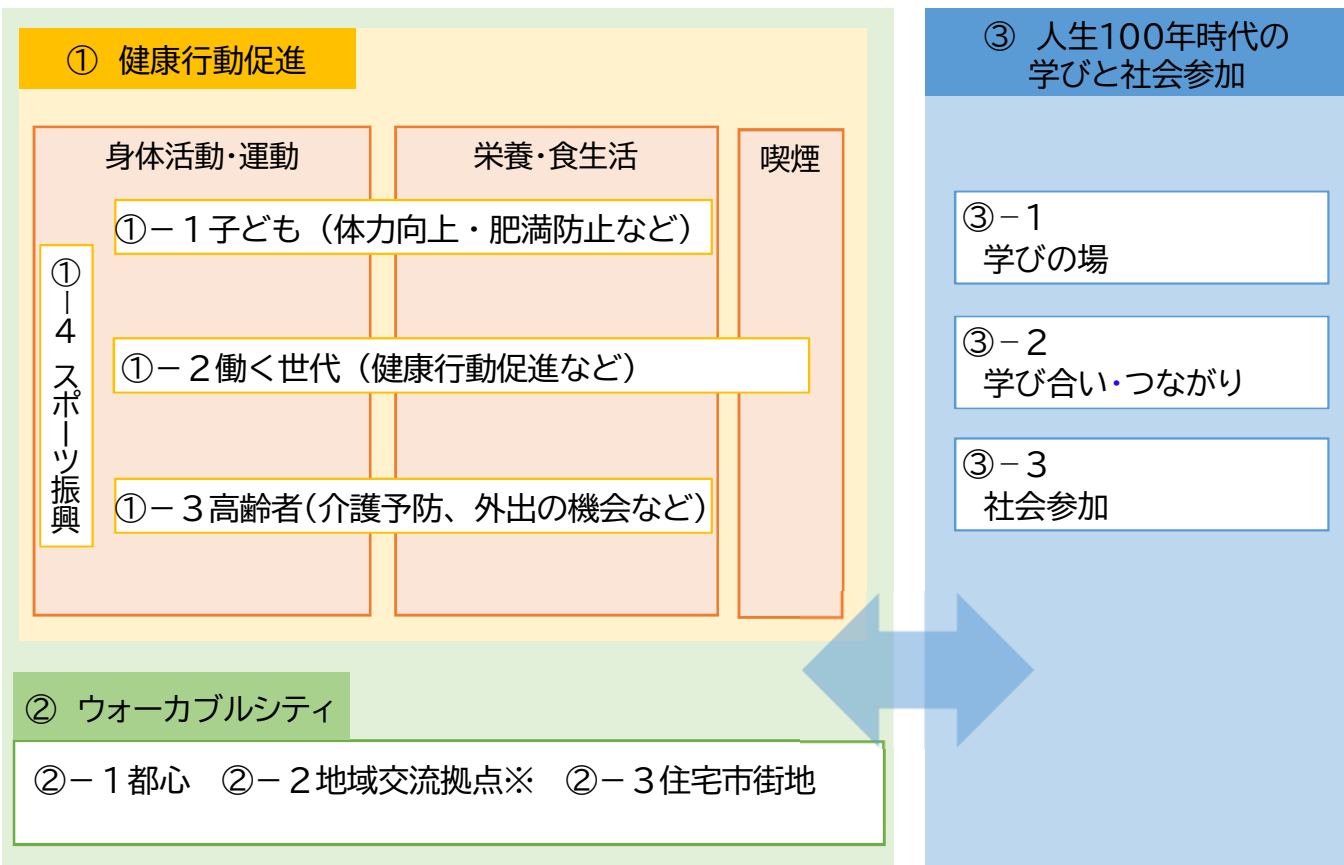
→誰もが生涯を通じて健康で、社会参加ができる社会の実現

- 健康寿命の延伸を実現するためには、子ども、働く世代、高齢者といった各世代における、**健康的な行動を促す「ソフト面」**の対策と、各地域における、**行動を行う環境である「ハード面」**の整備、といった両側面から、総合的で効果的な対策が必要。
- **精神的に充実し、人生100年時代に生き生きと活躍するためには、学びや社会参加の場(就労やボランティア等)の充実も必要。**

施策全体の関連図

主に身体的ウェルネス

主に精神的・社会的ウェルネス



※【地域交流拠点】主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア

主な施策

① 健康行動促進

①-1 子ども(運動量の見える化など、子どもの意欲や関心を引き出す取組を強化)

- 学校や公園等における子どもの運動機会・習慣づくりの推進
- 学校や家庭等における食育の推進

①-2 働く世代(健康無関心層へのアプローチを強化)

- 日常の運動量増加や食改善が自然と促される仕組みづくり
- オンライン禁煙プログラム等の禁煙支援の推進

①-3 高齢者(介護サービス未利用者も含む、フレイル予防の取組を強化)

- 専門員によるフレイル予防マネジメント推進の拡充検討
- 市民食育運動の推進(低栄養・フレイル予防)

①-4 スポーツ振興(札幌ならではの資源を活用した運動の強化)

- 気軽に運動を楽しめる機会や環境づくりの推進
- スポーツによる健康で活力のある社会を実現できる仕組みづくり

② ウォーカブルシティ

②-1 都心(地上と地下の重層的かつ安全安心な歩行空間の整備による「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の実現)

- 地下歩行ネットワークの充実検討(地上地下動線のバリアフリー化など)
- 道路空間の利活用・再配分、パブリックスペースの整備・活用促進
- 総合的な交通施策の推進(自転車、自動車、路面電車、路線バス、荷さばき車両など)
- 都心のみどりづくりの推進

②-2 地域交流拠点(多様な都市機能が集積する拠点ごとの特性を踏まえた空間形成)

- (仮称)歩きたくなるまちづくりガイドラインの策定

②-3 住宅市街地(良好な住環境の維持と連動したウォーカブルシティ)

- 「みどりの必要性が高い地域」での公園づくりや、公園の再整備や機能分担、Park-PFIなどによる民間と連携した公園の魅力向上策の検討
- 地域毎の自然や歴史、文化などの情報の充実、公園等での歩くスキーなど訪れたくなる仕組みづくり

③ 人生100年時代の学びと社会参加

③-1 学びの場

- 図書館等の「知の拠点」としての役割・機能の充実
- (仮称)札幌博物館の整備検討
- 学習ニーズに即した講師派遣や学習機会のマッチングなど、学びの場の充実と生涯学習センターのコーディネート機能の拡充
- ICTを活用した学びに向けた環境整備

③-2 学び合い・つながり

- 図書館等の知の拠点としての役割・機能の充実(再掲)
- 就労支援施設や図書館などでの職業能力向上や大学と連携したりカレント教育
- ICTを活用した新たなつながりの拡大

③-3 社会参加

- 市民によるまちづくりの充実に向けた支援
- 高齢者雇用の促進と、企業との就業機会の充実に向けたセミナーやマッチング機能の強化